

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2016.10) 平成27年度:55.

下肢閉塞性動脈硬化症の患者における血液浄化療法中の下肢痛の出現と関連要因

佐々木 央子

## 下肢閉塞性動脈硬化症の患者における血液浄化療法中の下肢痛の出現と関連要因

外来ナースステーション・透析センター

○佐々木央子

### 目的：

A病院では下肢閉塞性動脈硬化症の手術目的で入院する透析患者が、透析中下肢痛と同時に血圧低下を来すという経験的事実が存在する。そこで維持透析中の下肢痛の出現と透析関連低血圧との関連因子を明らかにすることを本研究の目的とした。

### 方法：

2012年4月から2014年3月に下肢閉塞性動脈硬化症の手術目的で入院し、手術前に透析を受けた患者61名について、痛み有群29名と痛み無群32名に分けて統計的に比較した。尚、痛み有とは透析記録上鎮痛対処した（痛み自制内を含）場合を指す。

### 結果：

痛み有群に比べ収縮期血圧低下（記録上血圧低

下の対処をした、又は20mmHg以上の収縮期血圧の低下があった場合を指す）を来す割合が優位に高かった（ $P < 0.05$ ）。透析間体重増加率、ヘモグロビン、アルブミン、CRPの平均には両群に有意な差を認めなかった。

### 結論：

下肢閉塞性動脈硬化症の患者の場合、下肢の疼痛の出現と収縮期血圧低下に関連があるものの、一般的に透析時に低血圧を来す原因は、血圧低下や下肢の疼痛の出現に関連していなかった。下肢の閉塞性動脈硬化症で透析を要する患者の場合、四肢以外の動脈硬化疾患の合併が多いため、透析時にも予測不能な血圧低下に留意する必要があることが示唆された。